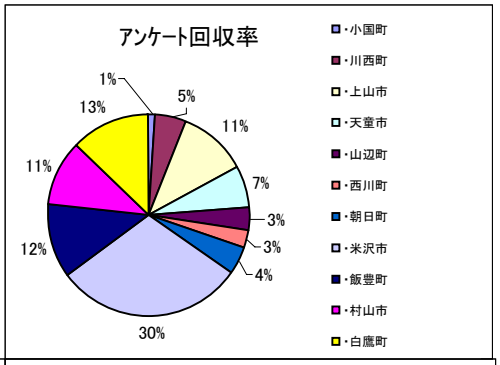
別紙－３

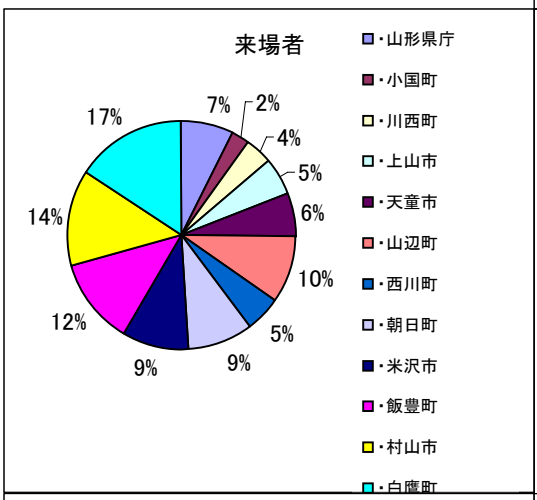
～忘れていませんか。水害への備え～　「羽越水害４０年行事」巡回パネル展アンケート結果（中間集計報告）

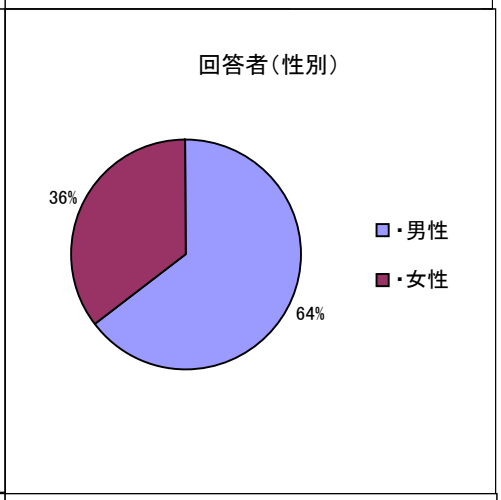
平成１９年３月１日（木）～５月２１日（月）

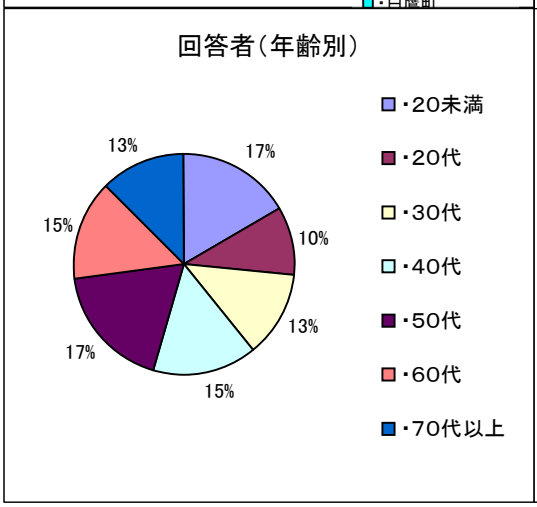
総合来場者　3,294　名　　アンケート回答者　179　名

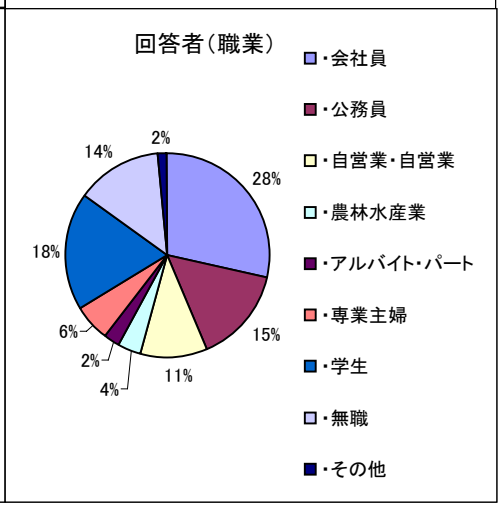
会場	来場者	アンケート回答
・山形県庁	245	－
・小国町	81	2
・川西町	130	9
・上山市	172	20
・天童市	206	12
・山辺町	313	6
・西川町	162	5
・朝日町	302	8
・米沢市	308	54
・飯豊町	408	21
・村山市	450	19
・白鷹町	517	23





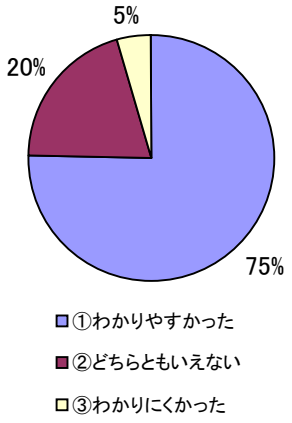






回答者数（名）

Ｑ１．今回の展示内容はいかがでしたか？	
①わかりやすかった	115
②どちらともいえない	31
③わかりにくかった	7

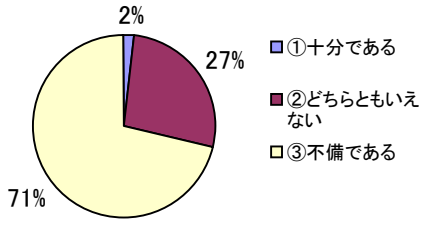


Ｑ２．印象に残ったパネルはどれでしたか？	
①おかしくなってきた地球	5
②羽越水害の記憶/忘れてはならない教訓	46
③羽越水害の記憶/応募写真/受賞作品	9
④羽越水害の記憶/資料写真/道路編	9
⑤羽越水害の記憶/新聞資料	10
⑥羽越水害の記憶/応募手記/受賞作品	5
⑦県内の水害	2
⑧県内の水害/応募写真/受賞作品	4
⑨安心して暮らせる街へ/公助	5
⑩安心して暮らせる街へ/共助	0
⑪安心して暮らせる街へ/自助	15
⑫水害に備えるわが家の防災アイディア/受賞作品	2
⑬「自助」「共助」「公助」の連携	0
※各地域（パネル展開催地）の被害写真	27

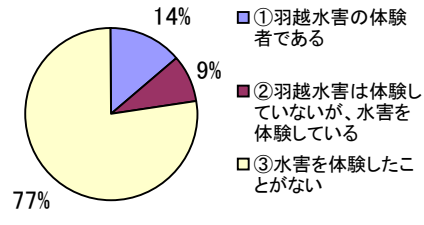
Ｑ３．わかりにくかったパネルはどれでしたか？	
①おかしくなってきた地球	4
②羽越水害の記憶/忘れてはならない教訓	0
③羽越水害の記憶/応募写真/受賞作品	1
④羽越水害の記憶/資料写真/道路編	1
⑤羽越水害の記憶/新聞資料	6
⑥羽越水害の記憶/応募手記/受賞作品	1
⑦県内の水害	1
⑧県内の水害/応募写真/受賞作品	0
⑨安心して暮らせる街へ/公助	7
⑩安心して暮らせる街へ/共助	0
⑪安心して暮らせる街へ/自助	3
⑫水害に備えるわが家の防災アイディア/受賞作品	1
⑬「自助」「共助」「公助」の連携	1
※各地域（パネル展開催地）の被害写真	0

Ｑ４．どのように感じましたか。（複数回答可能）	
①自分の住んでいる地域でも大災害（水害）が起こりうる	99
②災害への事前の備えの重要性	94
③身近な地域社会単位での協力体制の必要性	65
④一人一人の心構えや備えの必要性	67
⑤行政による防災対策の必要性	52
⑥その他	8

Ｑ５．現在、あなたが行われている災害への備えで十分だと思いますか？	
①十分である	3
②どちらともいえない	42
③不備である	111



Ｑ７．最後にあなたご自身が水害を体験された経験がありますか？	
①羽越水害の体験者である	17
②羽越水害は体験していないが、水害を体験している	11
③水害を体験したことがない	95



Ｑ６．この巡回パネル展をご覧頂き、あなたが感じたこと、災害への備えを進めていく上での要望など、どのようなことでもかまいませんのでお聞かせ下さい

○小国町

（７０代以上：男性）
・全くおそろしい出来事だった。生々しい記録を見せてもらい記憶を呼び起こしました。子供、孫達に是非広めたい。

○川西町

（７０代以上：男性）
・①羽越水害４０年の展示会ではあるが、村山・置賜地域から何点の応募があったのか表示すべきだ。
②応募写真、防災アイディア、体験手記などの展示を並べるべきであり展示ヶ所の上にそれを表示するべきだ。
③展示場所の証明を十分考慮すべきだ。

（７０代以上：男性）
・何時起こりうるかわからない災害に対する心構えを持つことを感じました。

（３０代：男性）
・何度も展示して欲しい。

○上山市

（２０代：男性）
・各パネル展に見出しが「」でくくられていてぱっと見てすぐテーマがわかり良かった。
・各パネルの大きさがほぼ同じで、見学後半に少し疲れる。
・ハザードマップが小さい。見学者の危機感を高める資料として、できるだけ大きくしてインパクトを与えるべきだ。
・アピール用の「のぼり」はわかりやすい目印として非常に良かった
・テレビで映像が流れているが、思い切って市民生活課窓口近くのテレビで流せば、認知度が高くなると思う。

（３０代：男性）
・もっと災害の写真が見たかった。国の事業のＰＲが多すぎの気がした。

（２０代：男性）
・写真という目に見える形で水害の様子が展示されており、非常に理解しやすかった。文章を読んで十分理解できることとそうでないことがあるので、体験談などと共に町の姿を写真で見ることができ理解が深まった。学校等でも展示できたらいと思う。

（３０代：男性）
・防災商品は、いつでも買えると思っているといつまでも何の対策もしないもんだと思いました。気がついたらすぐに行動は、何事にも通じるかもしれません。上山市で認定の防災商品ってあるのですか？

（３０代：女性）
・地震（能登）があったばかりなので災害について、恐ろしさを実感しました。

（３０代：男性）
・自治会などで防災活動をもう少し取り組んでもいいと思う。

〇天童市

（７０代以上：男性）
・自然災害には勝てない。防災が大事であろう。それには河川砂防等の防災が第一と、避難の情報が大事であろう。

（３０代：男性）
・身近なレベルでは災害への備えは全くといっていいほど行われていない。これまで災害は他人事のように感じていた。

（６０代：男性）
・現在の天童市の道の駅及びスポーツセンター有事（災害）時の拠点
①支援（応援）車両の駐車場に
②支援物資の集積所及び各支処への配給点に
③仮設住宅に

（５０代：女性）
・以前聞いたことのある地域での水害パネルを見つけその地名がなつかしくもありましたが実際にパネル写真を見て驚いています。日頃自主防衛など考えていませんが自分の場合は家の上に登るのが精一杯かと写真を見て思った所です。自分なりの避難場所、傷の手当など心がけたい所です。

（５０代：男性）
・パネルについて字が多すぎる

〇山辺町

（６０代：女性）
・川の近くに住んでいるので、おそろしいと感じました。どうしたらよいかわかりません。

〇朝日町

（５０代：男性）
・昔のことを思い出します。

（２０代：女性）
・災害は自分の身の回りでは起こらないものとついつい思ってしまうので、この様にデータ、写真など様々な形で見られると。意識も変わると思いました。

（５０代：女性）
・写真を見て昔を思い出しました。自分が体験したことを重なりあいました。

（６０代：男性）
・毎日が災害への備え

〇米沢市

（６０代：女性）
・米沢はあまり災害がないので不備である。

（４０代：男性）
・文字を大きくして読みやすくして欲しかった。当時の記録などもっと展示してほしい。

（５０代：女性）
・羽越水害を忘れずにこれからの備えに用いられてうれしかった。

（２０代未満：女性）
・災害に備えておいたほうがいいと思った。

（２０代未満：女性）
・災害などは、身近なものではないと思っていた。けれど、水害の対策などきちんとしなければいけないと思った。

（５０代：女性）
・私の父の行方不明の記事があった。

（２０代未満：女性）
・山形は災害は幸以外なさそうなのに、今から４０年前にこんなに大変な水害にあっていたなんて知りませんでした。この水害はあまり知られていないような気がするのでもっとみんなに知られるようにすればいいと思った。

（４０歳：男性）
・天災は忘れた頃にやってくる⇒この様な活動を継続する

（７０代以上：男性）
・当時の写真が何点かあったが、もっと多く展示があると良かった。探せば沢山出てくるはず。今後もＰＲを続けていうべきだ。

（２０代未満：男性）
・地元米沢でも被害が大きく、かなりひどい水害だと感じた。忘れてはならないものだと思った。災害時はすぐ対応できるよう、避難所をしっかり整備して欲しい。

（７０代以上：男性）
・常に自覚し人々と一緒に話あっていく必要があると思います。

（６０代：男性）
・このような災害に対しての対策は自分としては出来ていないとはじめてわかった。どのように逃げるか、部落として再度検討する必要あり。

（２０代未満：男性）
・市ではどれくらい災害への備えがあるかをもっと情報公開してほしい。

（２０代未満：男性）
・米沢は自然災害の少ない安全地だと思っていたが米沢も大きな被害にあっていたので不安になった。人は自然にはかなわないので、人間は最大限の備えと協力によって被害を最小限にくいとめるしかないので、もっと災害への意識を高める必要があると思った。

（３０代：男性）
・水害を体験したことがないため、なかなか実感がわきません。パネル展を見てしっかり備えをしておくべきだと感じました。

（７０代以上：男性）
・災害は行政と個人と向かい３軒両隣で地王するのが一番であるが、何も起きない時はとかく無関心になりやすいので機会を多く作って関心をもってもらう手立てが必要。

（２０代：男性）
・人の話としては羽越水害のことをきいていましたが当時の実際の写真を見て水害の規模の大きさを感じました。要望としては、河川整備の進んだ今にあって、それでも水害の予想されるところがあるのか、ある場合どこなのか知りたいと思います。

（４０代：女性）
・テレビ映像は有効的でわかりやすいと思う。近年の地球温暖化の影響等で、水害になることもあるかと思うが、実際に体験をしていないし、災害に対して意識が足りない。今後、備えは自分たちで進めていきたい。

〇飯豊町
（２０代：女性）
・このような展示をいろんな場所で今後もやっていただきたい。パネルだけではなく、他の資料もあるとよりよいのではないでしょうか。

（３０代：男性）
・公共工事の重要性を感じた。

（３０代：女性）
・資料館や博物館などで見たり聞いたりしたことはありますが、実際に体験したことはないのでかなり漠然とした想いしかありませんでした。災害への備えとして小さい子供がいるので具体的に”何日分””何個”など、目に見える数や、一人分の量を実際展示値段も表示してると良かった。

（４０代：女性）
・もっと実際の水の恐さがわかるような、お金はかかるけど例えば３Ｇ映像などで表現はできないかな？と思った。

（５０代：男性）
・危険と思ったら高台に避難する。我地区でもハザードマップはあるが、実際の場合ハザードマップは大丈夫か？

（５０代：女性）
・災害グッズをどこでうっているのか知りたい。できれば会場で販売してほしい。

（４０代：男性）
・治水行政が大事

（４０代：女性）
・自分のところでは水害なんて起こりえないと思っているけど可能性はある。
（扇状地のもとの方なので）防災グッズなどなにも用意していないので基本的なもの
くらいは用意しておきたいと思いました。

（４０代：男性）
・関東からきました。地方への移住を考えているものにとって災害だけを前面に出す
展示はドキっとします。もっとプラス面のＰＲも含めてほしい。

（２０代：男性）
・先年新潟県に住んでおり、夏の水害を身近に体験しました。以来水害は身近なところ
でも起こりうると実感しています。もう一度身の回りをかえりみて、水害への対策を
考えてみようと思いました。

（５０代：女性）
・もっともっと防災グッズをＰＲした方が良いのでは。自分自身、家族もこういう事の
意識が全然ないのです。

○村山市
（５０代：男性）
・河島地区での洪水のとき私は碁点橋附近および排水機場附近を見回りしました。
その時は３機ある排水ポンプがなぜか２機しか動いておらず、職員たちも残りの１機を
動かそうともしていませんでした。不可解な現象でした。楯岡方面、西郷方面の水が
すべてここに集まる訳です。このような雨量のとき３機の排水量はどれくらいなのか？
十分なのか？また大旦川の川底に土砂がたまり多くの木々が残っているが、早急に
川底の土砂を取り除く必要性をいつも感じています。

（７０代：女性）
・自助・共助・公助の必要性は日頃感じていますが、常備品など家の中のどこに
備えておくべきか。災害によって異なると思いますが、家族揃って話し合い、地域外
の親戚知人等とも連絡し合えるように心構えしたいと思います。電話連絡帳も良かった。

（２０代：男性）
・洪水ハザードマップの重要性がわかった。行政でご近所マップの作成を進めてもらい
たい。

（２０代：女性）
・今、現在の地球は、いつなにが起きてもおかしくありません。自分のところは大丈夫
とは思わず、災害について考えなければならないと思いました。このようなパネル展は
これからも続けてもらいたい。

（６０代：男性）
・もっと多くの人に見てもらいたいと思う。行政のＰＲが必要と思う。

（４０代：男性）
・常日頃からの心がけが大事）